2025/09/30 13:40 紙面

聖教新聞 20251008 通常 聖教２面 rev.2 2025/09/30 13:37:56

危機の時代を生きる 希望の哲学

人々を救いたいとの思いは宗派を超える本然的な感性

1面から続く

適応と普遍性

――ご著作では、〝世界史が衝突なしに進んだことはない〟との歴史観をつづられています。異文化との衝突を、対立ではなく成長の契機とするために、宗教が大切であったのですね。

そうも言えるでしょう。ただし、宗教もまた、おのおのの時代に適応しながら今日まで生き続けてきたと捉える視点も重要です。預言者ムハンマドやイエス・キリスト、あるいは釈迦の時代の信仰のあり方が、同じ形で残り続けているわけではありません。教えの解釈などを巡って、諸派、諸宗が誕生してきましたし、キリスト教における宗教改革のような、対立・分断も起こりました。

しかし、それは宗教の歴史においてごく自然なことなのです。歴史が常に、単線的に進むわけではない。宗教それ自体が、転換の性格を帯びているからともいえます。

キリスト教以前にも、仏教以前にも、宗教がなかったわけではありません。生まれては消える宗教がある中で、残り続けた宗教があったということです。後者に見られるのは、救済される対象を、特定の地域、民族に限らない普遍性を帯びていることです。

キリスト教であればキリスト教徒、仏教であれば仏教徒に救いを与えるのは当然ですが、一方で、救済の対象としては誰人も排除しないのです。その前提のもとに、大規模な布教も進められ、新しい場所へと伝播していった。

もちろん、布教は常に平和裏に行われたのではなく、多少の強制的性格を帯びることもあった点には、留意が必要です。ことにキリスト教の場合は、近代の「文明化の使命」と「植民地支配」は、表裏をなすものでもありました。

一方、世界には、救済を自らの民族に限る宗教も存在します。自分たちの幸福を実現することが神との契約であり、他民族を犠牲にすることも正当化しうる思想をはらんでいます。今日に至るまで、信仰心の厚いはずの国々での争いは後を絶ちませんが、背景に自己中心的なリアリティーがあると知ることが、世界情勢を見る上では重要です。

政治の複雑さ

――対立や分断の根深ともいうべき、排外主義やポピュリズム（大衆迎合主義）も世界各地で高まっています。

「ポピュリズム（populism）」は、ラテン語の「populus（人民）」に由来しており、ポピュラー（popular）やピープル（people）とも語源を同じくする言葉です。ポピュリズムは「人民主義」と訳されていた時期もあり、ロシア語では革命期の人民主義者を称して「ナロードニキ」、そこから派生する合言葉を「ヴ―ナロード（人民の中へ）」と言いました。ロシア の専制政治を打倒し、権力や政治を人民の手に取り戻そうとしたナロードニキたちの運動は、ある意味でポピュリズムの原型といってもいいかもしれません。

山内名誉教授の著書の一部

ポピュリストは、人民の意思を代弁する自分たちが権力や政治を取り戻すべきだと考えます。権力に対する執着が相当強いわけです。そして大きな特徴は、政治本来の複雑さやそこで必要とされる忍耐と妥協、譲歩を飛び越えて、目的にさっさとたどり着こうとする〝安直〟な態度です。人民の意思を代行していると自分たちに従えば安心なのだ、と。

例えば、安全保障の問題一つとっても、複雑で制約の多い自国の立場を自覚しながら、政治を進めていくのが近代民主主義の前提です。そこには、さまざまな歴史の複合性が多分に作用しているのであり、それは動かしがたい真実なのです。

ところが、ポピュリストたちは、その歴史の真実性や政治の持つリアリティーを、いともたやすく飛び越えます。大事なことは歴史ではなく信念であるなどと主張しながら、歴史的出来事を神話や伝説、甚だしきに至っては虚構に置き換えることに、痛痒を感じようしないのです。

ゆえに、ある意味では人々の説得もしやすい。複雑さや不条理を抱えて生きなければならない人たちに、ポピュリズム的な思想は相性がいいのです。全てを受け止めてくれるかのように映るポピュリスト政治家たちが影響力を発揮しているのは、世界的な現象であり、日本もその例外ではありません。

しかし、政治の筋道はそう単純に進むものではないのです。国会議員の中でも日本の核武装を主張する人がいますが、複雑な安全保障の議論を重ねることなく、思いつき程度で口にしたのであれば驚きです。詰まるところ、ポピュリストたちは十分に思考を重ねることをせず、物事を単純に動かそうとする傾向があるのです。

一国資本主義化

――ポピュリズムが台頭する中で、耳にするスローガンの一つは「自国第一主義」です。

〝トランプ関税〟への関心は日本でも高いのですが、アメリカをはじめ自国第一を掲げる政治が進めるのは、「一国資本主義化」です。歴史家のハラリ氏は最近、国家の「要塞化」という言葉を使いましたが、私はやや抑えた形で、「極端な一国資本主義化」と表現したいと思います。

社会主義は一国で実践できるものではありますが、資本主義は世界市場があって成り立つものです。それを、外国を隔離することで一国に収めようとするのが「極端な一国主義化」です。

例えばアメリカと中国といった、一国資本主義化した強力な国同士がぶつかり合ったら、どうなるか。国際的な協調や競争的共存を前提にした資本主義の原理が担保されれば、問題解決へと導く普遍的価値観は不在となります。ゆえに、衝突の危機を常にはらむことになる。

近年、私たちはウクライナや中東での危機で、普遍的価値観を無視した行為を目の当たりにしています。平和は誰もが尊ぶものであり、平和を実現することは、議論はないでしょう。しかしその平和が、当事国の意思を無視して、大国の論理に基づき強制されるようであれば、平和は永続的なものにはなり得ないことを知る必要があります。

まず一人が動く

――排外的思想や暴力性に陥ることなく、人類を善の未来へと方向づけるために、宗教また宗教者ができる貢献は何だとお考えですか。

宗教者ではない私が言うと簡単に聞こえてしまうかもしれませんが、多くの人を引きつける宗教は、本来は他の信仰に対する謙虚さを持っているように思います。異質な文化との出あいが当たり前の今日において、相手への信頼と尊敬をもって理解しようとすることが、基本にして最も必要な実践なのだと思います。

信仰はもちろん個人に内在するものですが、そこを出発点として、もともとは宗教に由来するであろうそれを換骨奪胎したような人の集まりや社会の制度が、近代から現代にかけて発展しました。リベラリズムやマルクス主義といった新しい価値観が生まれ、政治の場においても、宗教に取って代わる別の求心力が働くようになったのです。

一方、純粋な世俗政党が成り立ったのは、ごく最近である。政党それ自体は世俗的であっても、所属する個人は信仰を持っていたりします。例えば人権思想や国際法なども、その発想は、人々を苦悩から救済しようとする宗教的な価値観と無縁だったとはいえません。

極端にいえば、宗教的信念を世俗の言葉で表していたのが、近現代の新しい原理であるとさえいえるのです。

根っこにある宗教と、表層としての政治を融合していない点で、日本において象徴的な存在は公明党です。

創価学会を支持母体にする政党ではありますが、社会的弱者を支えるヒューマニズムの政策や実践は、一団体を超える普遍性を発揮してきたように思います。もちろんそれは、人々を苦悩から救済していく仏教、起因するものでありましょう。

政治の分野に限らずとも、宗教に根差したヒューマニズムは、特定の宗教や文明を超えて発展し、広がりを持つものです。紛争地、例えばガザで、医薬品も不足し、病院も機能せず飢餓に苦しむ人たちを助けたいという思いは、宗派を問わず普遍的なものでしょう。それはやはり、人の心を動かすと思うのですね。

そうした本然的な感性を大切にし、何とかしようと行動していけば、一人の動きが流れとなり、やがて大きな山を動かすかもしれない。最初から山が動くのではなく、まず人が動く。始まりは一人かもしれませんが、それが歴史の常だとも思うのです。

やまうち・まさゆき 1947年北海道生まれ。歴史家。専門は中東・イスラム地域研究、比較政治史、国際関係史。東京大学名誉教授・武蔵野大学客員教授・モロッコ王国ムハンマド五世大学特別客員教授・富士通FSC（フューチャースタディーズ・センター）特別顧問。カイロ大学客員助教授、ハーバード大学客員研究員、東京大学大学院教授、明治大学特任教授などを歴任。首相官邸設置「教育再生実行会議」有識者委員、政府「アジア文化交流懇談会」座長、「国家安全保障局顧問会議」座長、「21世紀構想懇談会」委員、「天皇の公務の負担軽減等に関する有識者会議」委員などを務めた。紫綬褒章受章（2006年）。司馬遼太郎賞、吉野作造賞、毎日出版文化賞（2回）、サントリー学芸賞などを受賞。『スルタンガリエフの夢』『民族と国家』『イスラームと国際政治』『破妬の世界史』『リーダーシップは歴史に学べ』『岩波イスラーム辞典』『中東国際関係史研究』など著書・共著多数。近著に『将軍の世紀 上・下』。

◀ 左の画像から、「危機の時代を生きる」識者インタビューの過去の連載の一部をご覧いただけます。

ご感想をお寄せください

カラー ０９月３０日 １３時３７分２６秒
spe13n01 h―hagimoto
S01. 20251008. E05. P2 h―hagimoto spe13n01 20250930133726
NOGRF：0 NOFONT：0 OBGRF：0 OBFONT：0

shimen-check-tokyo.seikyo-np.jp/seikyou/shimen/init?shimenId=S01.20251008.E05.P2&outputKbn=20&colorKbn=1&regionId=99999999&revId=2 1/1